

研究構想シート		学校名	奥出雲町立阿井小学校
		氏名	安部 慧
A 研究主題 自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成～わかった・できたが実感できる授業を目指して～			
B 研究の目的 自分の考えをもち、ともに学び合う子どもを育成するための方法を明らかにする。～算数科の授業を通して			
C 子どもの実態 <p>○学力の二極化が見られる。 （学力の差が大きい） 知識・技能の定着が不十分なために、学習に対して意欲が持てなかったり、既習事項を活用して問題解決をしていくことが困難だったりする児童も見られる。</p> <p>○自分の考えを持つことができる児童は多い。しかし、普段からの学びが『インプット』中心になりがちで理解した気になっている児童が多い。アウトプットの機会を多く作ることが必要である。</p> <p>○昨年度対話活動を中心に研究を進めてきた。しかし、『対話活動が活発に行われるかどうか』や『対話による考えの深まり』がグループのメンバーによって決まることが多く、児童の対話力を高めていくことが今後必要である。</p>	E 手立て・内容（研究仮説） <p>◎阿井小スタイルの確立（授業構成の共有化） ～算数の学び方を統一すれば、自分の考えをもち、ともに学び合う子どもが育つであろう～ （つかむ・一人で・みんなで・まとめ・ふりかえり）</p> <p>◎基礎学力をつけていく学習の提示 （家庭学習、計算タイム、自主学習等）</p> <p>◎自分の考えをもち、表現するための授業改善 （見通しを持たせる、具体物・絵・図などの活用、魅力的な学習課題、まとめ・振り返り）</p> <p>◎共に学び合うための手立て （ICTや既習事項の掲示・話し合うためのツールの活用）</p>		D めざす子どもの姿 <p>○自己の考えをもち、説明する等の表現力のある子ども</p> <p>○他者と共に学び合う子</p>
	F 検証方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業研究による検証・分析・評価 2. 教職員研修（出前講座の活用・「授業公開週間」等） 3. アンケート、観察等による児童の実態把握と変容の記録 4. 算数の基礎的な力をつける。また、発展的課題に触れるための取り組み 		
	G 研究計画 <p>○1学期授業研究会・児童アンケート（1回目） 夏季休業中・授業構想・指導案作成</p> <p>○2学期授業研究会</p> <p>○3学期授業研究会・児童アンケート（2回目）</p> <p>○今年度振り返り</p> <p>○来年度に向けての話し合い</p>		